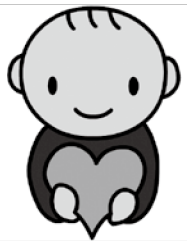
こ・こ・ら・ぼ

～こころのコラボレーション～



スクールサポーター
（臨床心理士）
小林　真理

今回は「ダウン症候群」についてふれていきます。

ダウン症候群とは、150年近く前にイギリスのダウン医師によって発表されたことから注目されるようになり、日本ではその名前をとって「ダウン症候群」と呼ばれるようになりました。

染色体の異常による障がいであるため、生まれつきからだが小さく、知的にも身体的にも発達がゆっくりです。笑うようになったり、首がすわったり、はいはいしたり立つようになったり、言葉が出はじめるといったことが、概ね半年から1年程度遅れてゆっくりと成長していきます。心臓疾患やその他の難しい疾患を抱えて生まれてくる子もいるため、ひとことで「ダウン症候群」と言っても生活をしていくうえでの障がいの状態はさまざまです。基本的には好奇心旺盛なことが多いのですが、成長の度合には個人差が大きく表れてきます。

小さい頃からご家族は医療機関やリハビリ機関などの専門家からアドバイスや支援を受けて、それぞれの発達段階に応じた刺激を与えること、子どもからの反応をキャッチして共有・共感するなど、小さな工夫と関わりを積み重ねています。こういったことを「治療的教育」という意味で「療育」といいますが、その子どもにとって適切な療育を受けることが大事になってくるのですね。

療育を受けながら、幼稚園や保育園に入園し年齢の近い子どもと関わることで、「一緒にやろう」として伸びていくこともたくさんあり、集団に参加することを経験として積み重ねていくのです。また知的障がい（前月号の「ここらぼ」参照）を伴うため、小・中学校では勉強の速度についていくのが難しく、地域の学校の特別支援学級を利用しながら他の子どもと関わったり、特別支援学校に通いながら地域の子どもとの関わりを大切にして育ち、高校は特別支援学校に通う選択をする方が多いようです。

いずれにしても個人差があるため、無理強いをするのではなく、成長段階を見極めながら、どうやったらできそうか、「今、何を身につけることが必要か」と考えて実行していくことが大切なことなのです。できるようになったことを一緒に喜べるような関係を築いていけるといいですね。

ダウン症を題材とした書籍

「ぼくのお姉さん」

長年障がい児教育に携わってきた丘修三さんが1986年に刊行した短編集。表題作の「ぼくのお姉さん」は、ダウン症の姉が働いて得たお給料で、家族に小さな奇跡をもたらす心あたたまる物語。ほかにも障がいをテーマにした5つの作品が収録。

「たったひとつのたからもの」

息子・秋雪との六年

某生命保険会社のCMで話題になった六歳で他界したダウン症の秋雪くんの生涯を記した作品。ドラマ化もされています。

植物園だより

シモバシラ（シソ科）
今月中旬頃、シモバシラの花が見頃を迎えます。名前は、冬枯れた茎に氷の結晶が見られることに由来するそうです。

◆9月花ごよみ

上旬
アキギリ、オケラ、カメバヒキオコシ、キバナアキギリ、タチフウロ、ナガミノツルキケマン、ヒメシオン、フジバカマ、マルバハギ、ミヤコアザミ、モミジガサ、ワレモコウ

中旬
アキノキリンソウ、アケボノソウ、ウメバチソウ、オグルマ、カシワバハグマ、コシオガマ、サクラタデ、シモバシラ、セキヤノアキチョウジ、ベンケイソウ、ヤチアザミ

下旬
キイジョウロウホトトギス、コハマギク、サラシナショウマ、シラネセンキュウ、マルバノキ、ミカエリソウ、ヤマトリカブト、ヤマラッキョウ、リュウノウギク、リンドウ

（＊主なものを掲載）

●植物観察会のお知らせ

園内を散策しながら郷土の植物、見頃の植物などを紹介します。

とき　9月9日(日)　10時30分～11時30分
料金　入園料のみ　1人100円（小学生以上）
定員　20名
※申込不要です。
※天候状況等により時間の短縮や、中止の場合があります。

【問い合わせ】町植物園　☎48-3337

家族や友人などとの食事は美味しいだけでなく、マナーや思いやりの心も育ちます。
いただく命と多くの関わりへの感謝の気持ちをはぐくみましょう。